

一般社団法人 社会福祉経営全国会議

コロナ・実態・事例ニュース



2022年2月10日発行 (No.19) 連絡先/〒543-0045 大阪市天王寺区寺田町 2-5-6-902

電話 06-6772-1360 Fax06-6772-1376 Eメール/jimukyoku1@f-zenkoku.net

第6波コロナ感染爆発！ 今、福祉の現場で何が起きているのか！

お寄せいただいた声を
ご紹介します！

1, 感染力が、ものすごくつよい

第5波までは、関係者へのPCR検査をしても、せいぜいぽつりぽつりしか陽性は出なかったのが、抑え込みが可能だった。今回は、検査した人の2割~4割が陽性、その時点で抑え込み不可能で閉所するしかない。

2, 症状が「軽い」とは限らない

全体として、症状が軽いとよくいわれるが、40度超や39度前後の発熱となるケースが結構ある。基礎疾患、高齢など、リスクをかかえる利用者・家族が多いなか、自宅での療養をもとめられる家庭も少なくない。命に直結したリスクを、生活施設も家庭も背負っている状態がつづいている。何回かの救急搬送でも、受け入れてもらえず返される。

3, 陽性者対応が増加

上記の結果、陽性者への対応をグループホーム、ショートステイをつかっておこなう状態がつづいている。

きわめて緊張度の高い支援を、作業所からの応援でつなぎつなぎ、かろうじて回している。防護服をきて出入りする状況は傍目に異様であり、地域から垣間見た人から不安・苦情の声が寄せられる。

4, 行政機関、医療機関のマヒ、関係者の負担増

保健所は完全にキャパオーバーでまったく対応できず。担当課を通じて行政検査を実施する。行政検査は第5波よりは、スムーズであるが、それでも準備、提出、結果まちと数日のタイムラグが生じるため、その間にも感染拡大がすすむこととなる。

やむなく、自主検査としてPCR検査を検査会社に有料でだして、即時の判断、対応をおこない、自己防衛をすることとなる。この検査結果は、行政側は正式なものとして認めていないため、さまざまな行政サービスをうけるためには、再度日数を要する検査を受けることとなる。

二度手間となるが、行政検査をうけて、宿泊斡旋などのサービスを受けたり、労災などオフィシャルな対応をすすめることとなる。

唾液接種は、一件一件、家族に連絡をとり、なかまを落ち着かせてとるという大変な作業を、一施設100件規模を訪問し行なうため、職員の負担がおおきい。

5, 財政面・経営面

作業所は、「臨時的取り扱い」がある程度機能するため、最低限の収入はある。しかし、限られた職員体制で一日2回以上の連絡をとるのは職員も家族も負担になっている。

陽性者の支援・療養を強いられるショートステイは、まったく収入がなくなる一方で、最前線で陽性者対応が必要となる。

応援できる職員も、使命感を維持し続けるには、あまりにも長期であり、支援の終了時のバーンアウトも気がかりなところ。(いったん支援に入ると、10日間は家族と離れてホテルぐらしとなる、その職員たちに支えられている)

特別対応手当、残業手当など、まっとうに処遇する姿勢を経営側が見せなければ、いつ職場崩壊になってもおかしくない。ケチるような雰囲気は絶対つくってはならない。管理者集団の団結が維持できているのが救い。組織・職員が疲弊していく中、管理者集団がバラバラとなると、組織崩壊しかねない。この間は、緊急不規則でほぼ毎週、緊急管理者会議を行い、情報共有に努めている。(大阪 障害)

・保健所の対応がなく
なり園独自で接触者
リストの作成など判断
が難しい 年度末の行
事などの進め方は今
後の課題。
(京都 保育)

・園児家族で濃厚接
触者がいても、症状が
出なければ検査が出
来ず、園児は登園可
となる。白黒ははっきり
しない中で子ども達の
保育をすることに不安
しかない。また複数の職
員が勤務出来なくな
れば、保育体制が一
気にとれなくなる。い
つそうなるか、日々不
安である。
・とにかく検査数を増
やして欲しい。職員の
定期的な検査、園児
家族が濃厚接触とな
った時の検査、迅速
に。ただ、検査キットの
不足、保健所の混乱
など聞いている限り、
対応は不可なのだろ
う。(京都 保育)

●第6波コロナ感染爆
発！今、福祉の現場で
何が起きているのか！
状況をお知らせくだ
さい！

書き込みフォーム
<https://forms.gle/MrdLH9bBIRHiAHUR9>

